

活用問題集「B-PLAN」の使い方

次のような①～⑦のサイクルを單元ごとに繰り返すことで、1年間に複数回の授業改善のPDCAサイクルを回すことになり、教師の授業力向上、児童の学力向上が期待できます。

【新しい單元に入る前に】

① 単元の目標と活用問題を確認する

まず、学習指導要領、年間指導計画を基に、単元の目標を確認しましょう。その後、単元に配置した活用問題を先生が解いてみましょう。

② この単元で児童につけたい力を決める

この単元で児童にどのような力を身に付けさせたいかを明確にしましょう。明確にすることで、ねらいがぶれない授業づくりができます。また、指導のポイントが焦点化されるため、児童に力をつける授業につながります。

③ 授業や単元の構想について計画する

目標や身に付けさせたい力が決まったら、単元を構想し、一つ一つの授業について考えていきましょう。單元というまとまりで教材研究をすることが重要です。

その際、活用問題や授業アイデア例を参考にしましょう。また、同僚や先輩の先生から助言も参考にしましょう。
※活用問題には授業の一場面を想定し、提示している問題がたくさんあります。また、国立教育政策研究所のホームページには、たくさんの授業アイデア例が掲載されています。

【単元の学習が終わったら】

④活用問題を実施する

単元の学習が終了したら、活用問題と解答用紙を印刷して配布し、児童に取り組みさせましょう。

※冊子の問題は拡大すると、取り組みやすくなります。

※1つの大問題につき約10分を目安に、クラスの実態に合わせて時間を設定してください。

⑤解答類型をもとに採点・分析する

児童の解答用紙を採点・分類・分析し、児童のつまずきを確認しましょう。

採点は〇×ではなく、解説ページにある解答類型に分類します。分類することで、児童のつまずきのポイントを捉えることができます。また、その問題の全国と鳥取県の平均正答率も参考にしてください。

⑥解答用紙を返却し、必要であれば補習や解説を行う

児童のつまずきがわかったら、補習や解説を行いましょう。活用問題実施後、なるべく早く返却できるようにしましょう。

⑦成果と課題を確認する

児童の解答の結果から、自分の授業実践の成果と課題を整理・分析しましょう。どのような取組が成果につながったのか、なぜ成果につながらなかったのかを分析することは、授業力向上に欠かせません。また、次の単元づくり、授業づくりにも役立てましょう。